245

特248
320

國際事情

最近國際事情紹介 (五)

0009689000

0009689-000

特248-320

最近国際事情紹介

大月社会問題調査所

5

昭和9

ABJ

特248
320

最近國際事情紹介

(五)

目次

英國から見た日印通商交渉……一頁
軍縮問題と國際聯盟改造問題……七頁
廣田外相議會演説の反響……三頁

昭和九・三・二

日印通商道交渉は我國に於ても成功せりと見る向と、惨敗なりと称する向とがあつて、両者の論争はいづれとも決し兼ねるものがある。それは見解の相違と利害得失の背反に基くものであるから異論の生ずるはむしろ當然であらう。国内に於ける是非の論よりも先づ英本國に於ける各方面の論争乃至は意見を見る事は交渉成果に対する日本としての正しき批判の素材を與へるものであると思ふ。其の意味に於て出来る丈けの資料を集めて見た。

△英國から見た日印通商交渉

一月四日の英国諸新聞は、日印交渉成立せりとの「ニユー、デリー」発電報を大々的に掲載し、協定の内容を相当詳細に報すると共に、「ランカシヤ」側に於ては、右報道に依り倫敦に於ける日英正式會商の再會を期待し居る旨の記事をも附加し居る処、同日の主なる新聞論調左の通りである。

(一) 倫敦「タイムス」(雑一)

日印會商の成立は、日印両國にも劣らず英國の歓迎する所なり。本件交渉に対する日本側の空気は甚だ面白からず。特に大阪方面の印棉不買の声明は、交渉を決裂に瀕せしめたるも、遂に此の成果を得たるは、時と忍耐と友誼的討議とが越へ難き困難をも克服し得るものなることを示す好但の実例となり、其の結果日英会商をも容易ならしむべきは疑を容れず。

之に依り日印貿易競争を避け得たるは最大の満足なるが、右は日本に取りては印度以上に幸なり。日本側としては、為替の下落なる人為的刺戟に依る其の輸出の莫大なる膨脹が、結局恒久的貿易関係の基礎とはなり得さることを認め、又其の輸出制限を約することに依り、已むを得ざる事実には服従しつゝも、他方安定せる市場に於ける実質的利益を收めたることとなり、日印交渉の成立か「ランカシヤ」に及ぼす影響を、此の際正確に豫言することは困難なるが、過大の希望を懸くるは過なり。

蓋し本件交渉の主たる目的は印度紡績業の保護に在り。「ランカシヤ」の利する所は、其の余沢に外ならざればなり。尤も昨年十二月の「ランカシヤ」代表と孟買紡績聯合会間の最極めが、大なる利益を齎したるは之を否

定し得さる所なり。是れ以上の対印貿易の将来は、唯「ランカシヤ」自身の手中にあり。兎も角「ランカシヤ」に対する日本の競争は或る程度迄緩和せられたるが、此の教訓か組織の改善、技術の科学化及労働力の生産増加かる結果を齎すや否やは、今後に之を望せんとす。

(二)「マンチエスター、ガーデイアン」(註二)

日印通商協定の成立は、「ランカシヤ」に重大かる関係あり。右は印度に対しては、「オツタワ」協定に基く英印会商の約を果すの自由を与へ、日本に対しては、輸税及「レーヨン」に関し、「ランカシヤ」と重要かる会商を開始するの自由を与ふるものかり。

日本政府は本件協定中の「クオータ」制度適用に必要かる輸出統制に付既に準備中かるが、最近日本の新聞は「余りに安價に賣るが如き自殺行為を止めよ」との記事を盛に書立て居り、東洋「トランス、パシフイツク」に依れば、

國家は個人の如く安き物を買はんとせず。関税、「ライセンス」制度、「クオータ」制度を設置せり。茲に於てか日本人は今後は輸出統制を為し、物

價を競争戦の僅か下に維持し、日本の製造業者及輸出業者は外国人の取る事を拒絶せる余分の利益を收むべく、斯くて今後外国の市場に於ける日本人間の競争は、値段にあらずして「サーヴイス」とかる次第ナリとの趣旨を述べ居る趣かるが、此の趣旨からば日本に対する競争者も何等反対せさるべし。

(三)「モーニング、ポスト」(註三)

日印交渉に関聯し注意を惹ける事実は、英國が一言も交渉に関与せすして、併も最後の責任を負担する立場に立てる点かり。蓋し若し印度にして日本との争議を、支那と同様の程度迄押進めたらんには、英國は印度に度保護の為干渉の挙に出づるを豫期せられたる次第かり。

然るに英國は「ランカシヤ」の市場拡張の為印度に於て努力し九七一パーセント」の綿布を輸出せるに、一九三一—三三年度には日本は四七、三「パーセント」に躍進し、英国は四八、七に下落したるか、英国の政治家は尚印度が関税及「ボイコット」に依り、母國の貿易を破壊するを黙視せり。併も英国は最後の責任を負ひ、英國海軍は常に印度の背後に立てり。英國は印

(一九三一—三四年度には日本の三「パーセント」に対し)

度に於て特惠を享有するも、日本の綿布に対する関税が七割五分より五割に引下けられたる以上、英口の特惠は何等の價値無く、日印協定は「マンチェスター」に不利かりと言はさるべからず。即ち「ランカシヤ」は日本及印度の生産し得ざる優秀かる種類の輸出のみを維持するに過ぎす。他方英口は印度防衛の責任を負ひつゝも印度の政策に「インフルエンス」を与ふるの権力を放棄せることも事実かり。

現代の英口政治家は一層高尚かる問題に没頭すと言ふも、帝口の存立が貿易に依據する以上、帝國の存立と貿易とを区別し、貿易に対する致命傷が帝口の存立に影響かしとするを得るや甚だ疑問かり。

(四)諸方面の意見

日印交渉の報傳はるや、「ランカシヤ」方面に於ては其の結果日英の会商を促進すへしとて歓迎意見を発表したるが、其の後協定の内容に対する意見として新聞に散見する所左の通り。

(イ)グレアー、リー卿、

日印協定の結果、以前日本より印度に輸入せられたる二億碼の綿布は、

印度と「ランカシヤ」間の競争に委せらるゝことゝかり、「ランカシヤ」は相当の分前を得ること、かるべし。

(ロ)ロビンソン氏（紡績聯合会）

印度の紡績業は急速の進歩をあし、「ポプリン」の如き優良品を生産するに至れる状態かるが、日印協定に依り日本綿製品に対する印度の関税は五割に引下けられたるに拘らず、英國製品に対する特惠税率は依然二割五分を維持す。然るに英國製品の競争の為には、日本品に対し従價十三割七分の課税を必要とする次第かり、其の上日本は依然 Grey cloths を輸出し、「ランカシヤ」としては今後印度の市場に於て必死の競争を豫期せざる可からず。「ランカシヤ」としては日印協定により利するところ無かるべし。

(ハ)紡績聯合会（ランカシヤ）

日印協定が「ランカシヤ」に利益有りや否や甚だ疑問かり。殊に「ランカシヤ」の印度に於ける特惠待遇は、日本の為替下落により依然效果なき状態かるか、為替変動を補正する規定か真実に実行せられさる限り、右不利の点は今回の協定に依り一層甚だしくかる恐あり。

（註一）ロンドンタイムスは、英本國に於ける知識階級層の讀者を有する新聞で、發行部數約十万程度に過ぎないが、讀者層の關係から最も有力なる新聞の一つである。獨立保守主義を標榜してゐるが常に政府御用新聞の如き觀を呈してゐる。

（註二）マンチエスター、ガーディアンは自由党系新聞として發行部數百二十万以上、地方新聞の權威にして、マンチエスター地方の輿論を代表する。從つて實業家政治家間には重要視されて居り、ロンドン一流新聞に比して敢て遜色がない。

（註三）モーニング、ポストは發行部數四万、保守党系にして上流、中流方面に讀者を持つ反社会主義新聞である。

軍縮問題と國際聯盟改造問題

ドイツ

一月四日ノ外交政治「コレスポンデンツ」は軍縮問題並に對佛関係に就

いて左の通り論評せり。

佛國新聞殊に「タン」が、佛口を以て真実に軍縮に努むるものなりとし、獨逸及其の他の國を非難せるを論評し、佛口が從来軍縮に大なる障害を爲したる事を挙げ、獨逸及其の他の口が壽府の經驗に鑑み、佛口に軍縮の意思なき事を今後に対する討議の出発点と爲せるは元より当然なり。

佛口が漠然たる形に於て將来に対し約束せんとする軍縮を直ちに実行すとせば、事態は根本的に改善せられ得べく、獨逸は何口にも増して之を歓迎すべし。

若し佛口にして現下の事態に於て、軍縮の爲に何物かを爲さんと欲せば、此の際自己の行はんとする軍縮を明示せざる可からざるに、佛口は依然として地位を顛倒し、獨逸の武裝を非難し居れり。佛口は獨逸軍隊を二十万に増員あるべき事、及一般に禁止せられさるべき防禦武器を四ヶ年後に獨逸に許容すへきに同意したり。即ち両口主張の相異の要点は、佛口か四ヶ年の一方的監督の後、獨逸に軍備増加を認めんとするに対し、獨逸は其の即時増加を要求するに存せり。而して獨逸の右軍備増加の要求は、一に佛口か「ベルサイユ」條約の限度に軍縮を欲せさるが爲なり。現

在の然ての困難は佛口に軍縮の意思なきに基因す。

佛國

「タン」（註一）

英國政府が去る一月二十四日の閣議に於て軍縮問題を議し、佛独間に調停を為すの意ありとの英口新聞報に関し、仝二十五日のフランス新聞「タン」は左の如き趣旨の社説を掲げたり。

独逸軍縮會議脱退の結果、仝会議としては会議を閉づるか、独逸なしに協定を作りて之が諾否を独逸に迫ばしむるかの二途ありしのみなるに拘らず之を避け、佛独直接交渉を希望したり。然しながら、独逸提案は独逸再軍備の為に軍縮の原則を無視せんとするものにして、佛口としては之に対し、安全を基礎とする一般的、漸進的軍縮に話を戻さんとし、又其の可能なる事を明かにする回答を為したるが、之に対する最近独逸の回答は、専門的「プレシジョン」を求むるのみにて其の主張に変りなく、佛独直接交渉は豫期の目的を達し得ざる状態にあり。

此の時に際し、英口政府は調停者の役を引受け仲裁案を出さんとすと

傳へらるゝ、如、右は英国が十月十四日協定を否認せんとする趣旨なるべきや。又討議の基礎として全会一致受諾せられたる「マクドナルト」案の要項を抛棄せんとするものなるべきや。英口は由来其の約束に忠なるを知るも、其の仲裁案として「ライヒスウエーアー」を民兵に変更し試験期を廃止する此の独逸再軍備の為、佛口が軍縮の一切の犠牲を拂ふ不合理なる案傳へらるゝにも顧み、敢て英口の眞意を知らんと欲す。然し兎に角英口としては、佛独政府の意嚮を確め、仲裁案が不成功に終らざる豫測の附かざる限り、其の「プレイテイージュ」の上より見るも案出し得ざるべし佛口は其の安全に関する限り、仮令英仏間の友情の為とは云へ犠牲を受諾し得ざるものある次第なり。

伊太利

「サイモン」英外相は一月三日及四日「ムツソリニ」首相と軍縮及聯盟改造問題について会談せるが、右に関し四日左の「コンミユニケ」発表せられたり。

英外相及伊首相會談「コンミユニケ」

両者は各般の政治問題特に軍縮並に聯盟改造問題に付審議を行へり。軍縮問題に関しては、両者は急速実現し得さるが如き主張又は提案は之を放棄し、国際輿論上従来論議熟し、且関係国の承認を得べしと認めらるゝ諸点にのみ力を集注し、出来得る限り速に之を終結することに絶対に必要かりとするに於て意見完全に一致せり。

聯盟改造に関しては、伊口首相より聯盟をしてより以上の活動に依り、其の使命を達成せしめ得べき諸標準を披瀝せり。

右「コンミュニケ」に対し、其の筋より出てたると覚しき説明ぱたの通り述へられり

軍縮の討議に関し、平和の危険を除去し、実際的解決を求むべしとする伊国従来の主張に対しては、英国政府の完全なる同意を得たるが、従来完璧なる主張かりとせられたるものも、実現し得ざるもの又は疑惑と不安を生するものは之を放棄して紛議と危険とを避け、一般に承認せられたる点に付速に実際的妥協を計るを要す。

仮令妥協は最少限度のものかりと雖、精神上、政治上欧洲政局の不安を除去するに重大なる效果を齎すべく、民衆之に満足し、各口は直に忌々たるの誠意を示し得べし。聯盟改造に関しては、本件が刻下の重大問題にして、其の願はしき改造に依り、より以上有效のものたらしむへしとする伊国の見解は何人も異議なき所なるべし。吾人は此の会談に依り、従来伊国の主張に対し英国輿論が示せる諒解を更に深むべきを信じて疑はず。

（註一）タン紙は佛口「ジュナアル、デ、デバ」と共に所謂二大政治新聞の一つである。発行部数約五萬であり、第一面に常に外交問題に関する論文を掲ぐるのを以て有名である。共和主義を一貫せる精神としてゐる。

廣田外相議會演説の反響

去る一月二十三日再開せる第六十五議会に於ける廣田外相の外交方針に関する演舌は、日本の新しい外交的動向を示すものとして各方面の好評を博しつゝあるが、之に対するカナダ並にドイツ紙の批判は次の如くである。

「カナダ、モントリオール、スター」（一月二十三日）（註二）

列国が日本の極東政策に深刻なる不安を有するの事実は、近時愈明瞭ぶり。米国は大海軍計画を有し、英国亦新嘉坡の防備を急速決行の模様あり。過去数日来米、仏、蘇當局が、日本に関し公表せる言説の大膽無遠慮なる事近年稀に見る所なり。此等列国の態度が日本を憂慮せしめつつあるは当然とすべく、恰も此の際荒木陸相の辞職せるは全く偶然の事実なりと傳へらるるも、二十三日再会せる帝国議会は、列国との平和親善を急務とし、軍国主義に対する反対の空気顕着なるものあり。廣田外相の日支関係改善に関する声明等は相当割引して聞くの要ありとは雖も茲に看取せらるゝ顕著なる事実は、列国の察したる忌憚なき警告が、今や日本に依り漸く感得せられたりと認むべきことなり。

獨逸

「ケルマニア」（一月二十六日）（註三）

「リトヴィノフ」及「モロトフ」の演説、新嘉坡に於ける英国海軍会議並米国の海軍計画を指摘したる後、要旨左の通り論じたり。

日本政府は此等の圧迫に対し反撃に出でず、寧ろ圧迫を回避するの必要を認めたるは、荒木陸相の辞職及廣田外相の蘇聯邦及米国に対する和協的演説に依り明かなり。日本の政策の目標は、日本の指導の下に日本支那及東部西比利亜に「アングロサクソン」の資本より解放せられ、且「ボルシエヴイズム」の危険無き経済區域を建設せんとするに在り。日本の蘇聯邦との戦争は、支那に於ける日本の地位を決定すべく、又日本の米国及英国との開戦は、日本が南米、濠洲又は印度洋に沿ふて西方に進出する通路を終局的に保障せらるゝや、又は閉さるゝやの運命を決定するものなるに鑑み、日本は差当り全力を東亜に集中し、将来の決定的闘争に備へんとするものなるべし。

今日支那の青年知識階級の大部分は、汎亜細亜主義を持し、日本との協力即ち黄色人種の精神的及政治的合同に努力し、「ボルシエヴイズム」及「アングロサクソン」の勢力と闘ひつゝあり。英斯科は既に支那に於て大部分其の勢力を失へる如、他面「ヒツトラー」の国粋社会主義は、中央欧羅巴の「ボルシエヴイズム」を打破せるのみならず、「ボルシエヴイズム」の計画は西班牙に於ても失敗したり。日本の「ボルシエヴイズム」に対する勝利は、

其の世界革命の終局を意味すべし。然れ共、多数「ブルジョア」政党に指導せられ、且工業化せられ居る日本としては、同国のみにて永く「ボルシエヴイズム」に対する闘争に堪へ得ざるべく、而して一方支那は、強き政府の下に国民的自覚に覚醒せる若き口としてのみ「ボルシエヴイズム」防止することを得べし。

（註一）「モントリオール、スター」はカナダ独立自由党系新聞として発行部数十八万三千であるが、日曜版（ウイークリー）は二十一万を発行してゐる。内容は極めて平易な通俗新聞である。

（註二）ドイツ新聞ケルマニヤは中央党系で一週十二回の発行度数であり、約五万の讀者を有してゐる。

昭和九年二月十一日 印刷
昭和九年二月十四日 発行

大阪市北区梅ヶ枝町梅ヶ枝ビル
発行所 大月社會問題調査所
発行兼印刷人 大月久治
（非売品）

53
02